

学習法の基本的な アプローチ

みなさんは何かを出来るようにしたいと思ったとき、どのような手順でそれを身につけますか？テニスやサッカー、卓球などのスポーツでも、パソコンの使い方や裁縫など技術が必要なもの、ゲームのテクニックや攻略法などでもかまいません。自分なりの習得方法がありますか？

多くの人は次の①か②の方法で始めると思いますが。

①とりあえず、やってみて何度かやっているうちにだんだん出来るようになる。

②説明書や解説書を読み、内容を理解してから始める。

①のタイプの人は、とりあえずやることも何度もチャレンジしていくこともいいことですが、ずっと自己流でやっていくと変な癖がついたり、遠回りをしたりしてしまいます。何度も繰り返すので、多少出来るようになって、本格的に上達を目指すそうとする場合、自己流でつけた癖がかえって邪魔になります。

②のタイプの人は、始める前に知識を仕入れることはいいことです。しかし、先に知識を入れることを優先するあまり、完璧に理解してから始めるようになると、始めるところまでたどり着けなかったり、始めるのがいやになったりします。完璧を目指しすぎないことも必要かもしれません。全て事前に理解



したからといって出来るようになるものでもないのです。

では、どうするのがいいのか？簡単に言えば①と②の両方を適度に行うことです。何かが出来ようになる近道は、その道の先輩(その道に詳しい人)にやり方を聞き、ある程度分かったところで自分でもやってみる。何度かやっているとうまくいかないことが出てくるので、また先輩にアドバイスをもらう。その繰り返しが必要なのです。一度聞いたからといって、もう聞かないというのはダメですが、何度も同じことを聞くのもダメです。

ここでいう「その道の先輩」とは、人でなくてもかまいません。解説書などでもいいのです。

そもそも、先輩に聞く、解説書を読むという「分かるようになった」と、何度も繰り返し上達する「自分でも出来るようになった」は別物で、これらを交互に行うことが必要です。「分かるようになった」というのは、頭に知識などを入れる作業。インプットであり、「自分でも出来るようになった」というのは、習得したことを表現する作業。アウトプットと呼ばれるものです。対の作業であるためどちらか一方しか行わないのではもちろんダメで、両方をきちんと行うことが上達への近道です。

部活などでは、基礎練やミーティングなどでインプットを行い、その後それがきちんとできるようになったかミニゲームや練習試合でアウトプットをすると思います。

学習になるとインプットやアウトプットを嫌がる場合があります。きちんと授業を聞かないで自己流でやるインプットをサボる。分かったからといって、解き直しをせず、繰り返しいろいろな問題を解くことをしない。アウトプットをサボる。

これでは上達は遅くなりますし、上達しないこともあります。

ここまでくればどうすればいいのか分かりますよね？分からない？

ちよつとまで、ちよつとまで……きちんと基本的なことを理解してそれを繰り返す。出来るようになったら、次のステップを理解してまたそれを繰り返す。これが結局、時間がかかるようで最短な道なのです。勉強に王道なし。いや、この繰り返ししが王道です。もちろん短時間で何かを習得し上達できるわけではないので、多少の時間的、精神的犠牲は伴いますよ。さあ頑張らしましょう。

(松永)

理科の楽しみとは

昨年度のノーベル物理学賞を赤崎勇先生、天野浩先生、中村修二先生が受賞したのは記憶に新しいところだ。



三人同時受賞とは本当にすごいなあと思いましたが。私は学生時代に物性物理、簡単にいうと半導体に携わっていたこともあり、青色LEDを実用化に導いた中村修二先生のことにはよく名前を聞いていて、いつノーベル賞を取るんだらうと思ってもいました。

最近、将来の職業をイメージして物理や化学を選択する人が少ないと感じていますが、それでもまだまだ日本にはリチウムイオン電池の実用化に貢献した水嶋公一先生や、カーボンナノチューブを発見した飯島澄男先生等ノーベル賞候補とよばれる方がいます。やはり日本人としてすごいなあと感じました。

ところで理科という教科は実験や観察を通

して単純に感動できる部分と、なぜそのような現象が起こるのかを理論的に探究する部分とがあると思います。このうち中学までの理科は前者であると思います。実験や観察でわかった結果を「こうなるのです」と覚えるのがメインになります。若干の計算はありますが、中学理科が暗記科目と思われるのはこのことからです。

理科が苦手な方はこの暗記の部分、特に決めごとについて疑問を持って考える方が多いのが最近よくわかりました。例えば物理における仕事というのがあるのですが、これは、

(仕事)「ジュール」 \parallel (力)「ニュートン」 \times (移動距離)「メートル」という式があつて、この仕事は一「ニュートン」の力で一「メートル」動かしたときの仕事を一「ジュール」と決めますよ、としたものですが、「仕事って何？ わからない。」と思う人がいます。実はこのような決めごとには抽象的なものが多く、イメージができない \parallel わからないとなるのです。実はこれは私が岡本という姓であることを「なんで岡本なんだろう。わからない。」と言っていることとそれほど変わりはないのです。

理科は自然界で起こる様々な現象などを「人間」が「人間」のために名付けたことが多くあります。それらのことは一度「そうなんだ」と納得することにして、次のステップに踏み出すようにすると、また理科に対する見方が変わってくると思います。

日本の理科(物理・化学・生物・地学)はいまだに最先端を走っていると思つていきます。その最先端の理科をちよつとかがじつてみても皆さんにとつて得することはあつても、損することはないと思います。

(岡本)

「逃げ」

むかし、こんなことを言っていた高校一年生がいた。

「オレは部活だけ頑張ります。レギュラーになりたいし、全国大会に出場したい。そのために部活に全てのエネルギーを使いたい。だから授業中も部活を頑張るために寝ます。勉強は適当でいいです。」



彼が通っていた学校は部活動が盛んで、彼が所属していた部も県内随一の強豪として知られていた。部員数は百をゆうに超える。その中でレギュラーの座をつかむのは簡単ではない。当然練習だって厳しいし、休みなんてない。そんな状況下での言葉であった。

みなさんはここまで読んで、彼の何をどう思っただろう。熱血体育バカ?ただの勉強嫌い?私の考えはこうだ。

彼はただ、目の前の苦しいことから逃げていただけの弱虫である。もっともらしいことを言っているようで、本当はただ楽がしたいだけ。しかも、好きな部活を言い訳に使っているところが罪深い。こんな風に苦しいことから逃げ、好きなことだけをやるうとする彼は、果たして部活動で活躍し、充実した三年間を過ごせたのだろうか。

答えはNOである。彼は二年の春に大きな怪我をし、伸び盛りの大切な一年間を棒に振ることになる。三年生の春にレギュラーに定着するが、最後の夏を前に怪我が再発し、チームは全国大会に出場するも、彼は数試合の出場にとどまる。全国大会出場を評価してくれる人も多いが、彼自身としては悔いばかりが残る、中途半端な三年間であっ

た。

さて、ここまで私は「彼」のことを散々罵倒してきたが、何を隠そう「彼」というのは「私自身」のことである。授業や面談で偉そうなことを言っておきながら、こんな中途半端な高校生活を送っていたのだ。何ともお恥ずかしい。しかし、どうしてもみなさんに伝えたいことがある、恥を承知で書いてみた。

それは「何かひとつだけ、真面目に一生懸命やるなんて不可能だ」ということだ。「部活をする自分」も「勉強する自分」も「日常生活の自分」もすべて同じ一人の人間である。多重人格でもない限り、すべてが密接に関係しあっている。だから勉強からは逃げまくって、部活だけ真面目に一生懸命なんて不可能なのだ。勉強で苦しいことから逃げる弱さ、甘さが必ず部活にも影響する。私生活がだらしなければ、そのだらしなさが必ず勉強にも部活にも影響する。何かで輝いている人というのは、何をやっても一生懸命で誠実なものだ。夏に向かって部活も忙しくなるが、みなさんは苦しいことから逃げずに、何事にも一生懸命に頑張ってみよう。それが私の願いである。(高寺)

スマホ警報

●先日、信州大学の学長が述べた入学式での祝辞が大きな話題となった。「スマホをやめるか、信大生をやめるか」という過激な問いかけをして、スマホ依存に警告を発したのである。これは大勢の生徒をお預かりしている創学舎にとっても看過できない問題である。

●さて、私は高校生を対象に授業を行っているが、生徒のスマホ依存は年々拡大する一方である。担

当する生徒全員に一日の使用時間をきいたところ、最大六時間、平均二時間といったところだろうか(雑談の中での質問という形で聞いたのであるが、控え目に言った生徒もいるかもしれない)。これは、大変なことである。ほとんどの生徒が部活をやっている、忙しい生活である。その中でスマホに二時間(人によってはそれ以上)費やす。そのために生徒は努力している。空き時間を見つけ、新しいゲームなどの情報を取り入れ、友人との交信にも気がつかっている。勉強する時間は?余りとれない。読書は?本を開いたら気絶する。新聞は?見たら吐く。創学舎に来ている生徒で、ここまでの状況の生徒は多くはないはずだが、でもこれは実際の生徒の発言である。



●高校生では、百パーセント近い生徒が保有。中学生でも七〇パーセントを超えているだろう。人類は、またまた恐ろしいものを作り出し広めてしまった。勿論、有用な面も計り知れない。大学生にとつては、学業研究のためにも欠かせないアイテムである。ガラケー人間の私は、登山が好きで、北岳や槍ヶ岳など登ってきたが、今後に備えてスマホを手に入れようかとも思っている。地図から気象、自分の位置まで分るのだから実に魅力的である。

●しかし、中学生高校生そして大学生までが、ひまつぶしでスマホを毎日何時間も操作しているとしたら、その子の将来はどうなってしまうのだろうか。毎日三時間使う人は一年三六五日で一〇九五時間、スマホ中毒の大学生は四年間で四四〇〇時間ぐらい。この時間を読書や勉強に充てた人と、スマホでのひまつぶしに使う人では、とりかえし

のつかない差が生まれる。親は、買ってあげてから嘆く。「まったくスマホばかりして……。甘い!一年で一〇九五時間。四年で四四〇〇時間。成績や受験や就職のことだけを考えても大変なことになりますよ!

●親は誰でも自分の子供の成長と幸福な人生を望む。そして、心身の健康や人間関係がある程度クリアできていたら、あとは相応の学力や学歴を獲得してほしいというのが普通だろう。もし、そうであれば、スマホを買い与えた以上、その使い方にも責任をもたなければならぬ。「子供がスマホばかりしていて、イライラする。」「このままでは、とても受からないのでは……。」という程度の心労では足りない。一〇才〜二五才の脳や心が最も成長する時期に、「スマホさんまい」の過ごし方をさせると、とり返しつけないことになるということ強く感じてほしい。そしてどう対応するか、親なれば悩んでください。そして、大事な子どものために体をはってください。

●勿論、私は役目として授業でいう。「きみの人生だから。やりたいただけやれば。」「きみの頭のレベルにちょうど合っているんじゃないの。」「きみには、センター試験の国語の文章なんか絶対読めないからね。読んだら気絶するよ。」「志望校は妥当だし、やれば合格するための素質は十分にあるよ。でも、きみは合格を犠牲にしてスマホやりたいんだよね。やれば……。きみの人生だからね。」「さあ、今日も闘いだ!

(小林)



▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
▶在籍していた教室までご連絡ください。